

高分子の可能性を追求し、 より良い移動と暮らしを未来につなぐ会社

豊田合成株式会社
取締役社長 兼 CEO 齋藤 克巳

豊田合成は創業以来、ゴムやプラスチックなどといった高分子材料を用いた自動車部品をお客様にお届けしてきました。長年培ってきた高分子材料やその加工に関する知見は当社の強みであり、それを活かして将来への事業成長を目指しています。2030 年に向けた事業計画では、「高分子の可能性を追求し、より良い移動と暮らしを未来につなぐ会社」をビジョンに掲げ、将来のモビリティの変化や社会課題を見据えて、「安心・安全」「快適」「脱炭素」という価値を社会へ提供していきます。

今回のジャパンモビリティショーでは、これまで当社が自動車部品事業で培ってきた技術が、将来の「多様なモビリティ」や「人々の暮らし」に広がっていく姿を示しています。これらの姿を見ていただくとともに、五感で体感いただくことを通じて、豊田合成が描く未来に期待を寄せていただければと思います。

当社がどのような技術を通じて「安心・安全」「快適」「脱炭素」の価値をお届けしていくかを紹介していきます。

まず、「安心・安全」の分野では、エアバッグなどのセーフティシステムの提供を通じて、交通事故による死傷者の低減を図り、安全なモビリティ社会を作っていきたいと考えています。将来に向けては、自動運転などにより多様化する乗車姿勢に対応した「シート一体型のエアバッグ」を開発していきます。

また、当社は「あらゆる人を守っていきたい」という想いから、急増している自転車との事故にも対応していくため、クルマの横方向から自転車が衝突してくることを想定し、自転車の運転者を守るためのコンセプトとして、タイヤ周辺のボディがクッション代わりとなり衝撃を軽減する「ポップアップフェンダー」を紹介します。さらに自動車以外の各種モビリティ向けのエアバッグの事例として、現在開発中の「自動二輪車用エアバッグ」を展示しています。当社は今後も、移動するすべての人を守るための技術開発に取り組み、安心・安全な社会の実現に貢献していきます。

次に「快適」の分野です。近年、クルマに求められるものが「乗り心地」に加え、「居心地」が重要視される傾向が高まっています。これは、パーソナルな空間で過ごしたいという価値観の高まりに加え、将来的な自動運転の普及により、移動中の過ごし方が変化する事が見込まれるためです。当社では、今後、車室内がエンタメ空間やリラックス空間に変化することなどを想定した提案をする中で、コックピット周りの製品を進化させ、移動時間に心身がリフレッシュできるなどの新たな価値を持たせた空間の提供を目指しています。今回展示している「未来のコックピット」では、自動運転時にドライバーの体調や気分を検知し、その時々の状態に合わせた光や音、香りなどの演出で、リラックスへと導く車室内空間を体感いただけます。

また、自動車向け以外の新事業として、ヘルスケア分野でも人々の快適と幸せに貢献していきたいと考えています。「ヘルスケア AI インソール」は、高齢化社会が進む中、健康寿命をいかに延ばすかという課題解決の一助となる技術です。足の裏にかかる圧力データを活用し、猫背や反り腰などといった姿勢の問題を見える化するとともに、これまでに蓄積した健康データを踏まえ、将来の発病を予見し、様々な防止策に繋がる有用な情報の提供が可能です。今回のモビリティショーでは、取得したデータに基づき、ご自身の姿勢の傾向を解析する体験コーナーを設けています。

最後に「脱炭素」の分野です。現在、次世代エネルギーである水素の普及にも期待が高まっています。当社では、2019 年に乗用車向けに高圧水素タンクの生産を開始し、現在では、トラックなどの商用車や船舶でも利用いただくなど、活用が広がっています。2024 年には、モビリティ以外の様々な暮らしの場面でも安全に利用いただけるよう、「持ち運び可能な水素カートリッジ」のタンクを開発しました。調理器や燃料電池と組み合わせた電源など、より身近なシーンで水素エネルギーを活用いただける未来が近づいてきました。このカートリッジは、水素充填ステーションの普及にかかわらず、幅広い場面での利用が見込めるため、今後、水素エネルギーをより早く社会に浸透させることに貢献できると考えています。今回のモビリティショーでは、このカートリッジを車やスクーターなどで活用する事例により、モビリティと暮らしがシームレスに繋がる未来を紹介しています。なお、西ホールの1階で行われている Tokyo Future Tour で、トヨタ自動車様が展示している水素サウナでも、この水素カートリッジが使用されています。

また、資源循環の取り組みではプラスチック・ゴムの自動車部品の廃材を高品質な原材料に戻し、同じ部品に再利用する「水平リサイクル」を進めています。リサイクル部品はすでに部分的に採用されており、今後は見栄えが求められる部品などへも適用を拡大していきたいと考えています。今回展示しているコンセプトカーでは、リサイクルしたプラスチックとゴムをクルマの顔となるフロント周りに搭載した事例を紹介しています。

今後も豊田合成は、持ち前の高分子技術を生かし、安心・安全、快適なモビリティ社会の進化と、脱炭素社会の実現に貢献していきます。「豊田合成は面白い会社、何かやってくれそう」と言っただけの会社になりたいと思っています。これからも当社にご期待ください。